

平成26年度復興支援の担い手の運営力強化実践事業

いわて文化支援ネットワーク通信

アシスト・なう

10号

発行日
平成26年8月1日

発行:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷:杜陵高速印刷株式会社

YUKIKO

~ユキコ 再び、うたを~

再演に寄せて

震災から3年が経ちました。一部では震災は過去のことと、風化の兆しは見えますが、復興はこれからが本番です。しか

〔YUKIKO〕
作・演出
坂田 裕一



も、文化芸術による心とコミュニティの復興は、今、その緒についたばかりです。

昨年10月に盛岡の「いわてアートサポートセンター・風のスタジオ」で上演された「YUKIKO(ユキコ)」再びうたを〜が陸前高田市と青森県八戸市で再演されました。

実は、震災が起こる一週間前に自作の「テルミドールの風」を上演していました。震災時は公演の余韻に浸りながら次回作の構想を練っていた時期でした。構想もほぼ固まり、定年退職を迎える年の平成24年度には公演を実現させたいと考えていました。

しかし、震災のショックは、予想以上に私には重く、その後いくつかの演出は手掛けましたが、新作を執筆する気には全くなれませんでした。

私は、父親の転勤に伴い、中学時代等わずかな期間ですが、陸前高田市に住んだことがあります。大規模避難所で有名になった市立第一中学校があの高台に移った第一回目の卒業生です。高校は盛岡で下宿生活を送っていましたが、夏休みや冬休みなどの長期の休みは両親のいる陸前高田に帰っていました。陸前高田は少年時代の思い出



の街です。震災後一カ月の平成23年4月、やっと陸前高田に入りました。中学時代からの親友に案内してもらったのですが、現にそこに暮らしている彼ですら、道を間違えうほど、街は廃墟になっていました。私が所属している「劇団 赤い風」がかつて公演した市民会館も…。同級生が7名亡くなったという話を車中で聞きました。

震災以降、私は「3・11絵本プロジェクト エクトいわて」の発足に参画するとともに文化芸術関係の仲間たちと「いわて文化支援ネットワーク」の活動を立ち上げ、楽器支援や子供たちの芸術体験事業、被災地と文化芸術を結ぶコーデイネート活動を続けてまいりました。

いわて文化支援ネットワーク2014事業計画

いわて文化支援ネットワークでは、東日本大震災からの芸術文化面での復興をめざし活動をしてきました。今年度も、被災地への文化支援を行っている岩手県内の芸術文化団体のネットワークを形成し、支援事業の連携と協働展開や情報発信、そして文化ボランティアの人材育成を活性化させると共に、全国からの文化支援や県等の行政からの情報と被災地を結ぶ中間支援コーディネーター事業を実施することを目的に、今年度も更に新たな事業を加え、被災地の文化支援活動を展開していきます。

事業名	実施開場・時期	内容
(新) 沿岸地区文化芸術連携会議	久慈市、宮古市、釜石市・大船渡市の3会場を予定(9月まで)	沿岸地区の文化行政担当者や文化芸術関係者の皆さんに集まっていたり、地域の文化芸術にかかる情報交換をします。
(新) アンケートの実施	9月頃実施予定	被災地の文化活動者、および一般市民に対するアンケートを実施し、文化芸術活動推進の課題や文化ホール等の文化芸術環境への希望、鑑賞需要、活動需要などのアンケート調査を行います。また、被災地文化の再生のために「地域ならではの文化」の掘り起しなどにも取り組みます。
コーディネーター事業	通年随時20回程度	全国のアーティストの被災地派遣のコーディネート、および文部科学省や文化庁の支援事業へのコーディネート協力、民間の助成事業などのメセナ活動のコーディネート協力、沿岸被災地に文化支援推進員(現地コーディネーター)を配置し内陸部の専門家推進員とともに被災地からのニーズコーディネートを行います。
(新) 文化支援指導者の派遣	通年随時	被災地の文化活動をサポートするため、内陸部の文化活動リーダーやアーティストを派遣し、文化芸術活動にかかる指導を行います。
(新) 沿岸地域での研修会(ワークショップなど)の実施	8月~12月	演劇・音楽など被災地で求められる文化活動のワークショップを行います。
(新) 被災地の文化会館等の再開・新設支援等の芸術環境づくり支援	通年随時	被災した文化会館の新設・再開にかかる運営や事業計画づくりのサポートや市民参加による演劇音楽づくり等にかかる組織づくりなど支援します。
文化支援ネットワークフォーラム開催	盛岡市、11月頃	岩手県内で行われている主な文化支援活動の紹介と基調講演を開催します。
支援金「ワンコイン募金」「文化サポート会員募金」	通年随時	イベント実施時の「ワンコイン募金」や全国から会員制の文化支援金「いわて文化サポート会員募金」を募集し、支援金を活用した事業(楽器支援、被災地での芸術鑑賞支援、文化ボランティアの要請などの展開)を実施します。また、支援にあたってはほかの助成制度との競合をできるだけ避け、従来からの楽器支援等に加え、被災地からの文化発信や被災者自らの活動の支援に当てます。



2013年度のいわて文化支援ネットワークの活動を提言書にまとめ、県内教育委員会や文化施設に配布しています。震災後の文化活動を考える重要な資料としてご活用ください。



震災3年を経過し、被災地はまだまだ厳しい状況ですが、日々の暮らしはそれなりに落ち着きを取り戻してしまっています。今後も復興の道は長く険しく続きますが、それでも、被災地の市民の皆さんの文化芸術への思いはしだいに高くなってきているように感じています。震災直後、幾人かの劇作家が震災のことを取り上げ、上演しています。震災に演劇人はどう向かうべきなのか、悩みました。震災での出来事を軽々しく取り上げ舞台化することに違和感も覚えました。震災を体験し家族など親しい人たちが失い、暮らしの糧を失った人たちが大勢いて、その人たちの心の傷を思うとき、その傷の深さと拮

抗出来得るような芝居作りは可能なかどうか。表現の現場に生きるものとして、何時かはそれに向かう必要があるとしても、その時期は、震災直後ではないと思います。そんな中で、私に執筆の後押しをしてくれたのが、実は陸前高田の二人の同級生でした。一人は太鼓奏者でもある親友の菅野健一さん、もう一人は今回の作品のモデルとなった陸前高田の「ジャズタイム・ジョニー」の照井由紀子さんです。この二人と私はクラスが一緒で席もほとんど近く、転校生だった私にとっては頼りになる人でした。赤い風の陸前高田公演も二人にはとてもお世話になりました。

菅野健一さんは、震災直後からの絵本プロジェクトや文化支援の活動に協力を頂きました。同時に、太鼓にかけの情熱の深さに脱帽しました。震災の年の7月に全国の太鼓仲間と声かけ、陸前高田で太鼓の競演会を実現させたのです。照井由紀子さんとお会いしたのはその翌月です。津波で流された「ジョニー」を仮設で再建するという話を聞きました。再建後、文化支援ネットワークの陸前高田における集會拠点はジョニーになりました。

一昨年の秋です。文化支援の会合でジョニーをお借りした時、由紀子さんにおさるおさる尋ねました。「由紀さん



んとジョニーをモデルにして戯曲を書いてみたいけど」。詩人である由紀さんが私に「はい、これ私が書いた詩」と同人誌を渡してくれたことも一因です。詩作を復活させた由紀さんに勇気づけられました。そして、菅野さんは24年の1月の仙台市の成人式に招かれ、還暦の青年の太鼓を式冒頭で披露していたのです。負けれないなと思っていました。

由紀さんは、戯曲執筆を即座に同意し、とても喜んでくれました。同時に条件を付けられました。「震災前や直後のことではなく、その後のことを書いて」ということでした。そして、私だって「夢を持ちたい」と付け加えま

した。彼女がモデルと言っても、リアルに舞台化したわけではありません。彼女の詩や、仮設のジョニーの日々から見える断片的な事柄の隙間から、感じたことを増幅させて書きました。今回の芝居の再演は、昨年の公演で大きな評価をいただき、多くの観客から再演を進められたこともありですが「是非、陸前高田で上演すべきだ」とおっしゃっていたいただいたモデルの照井由紀子さん、そして菅野健一さんをはじめとする陸前高田の方々や、会場を快く提供して下さった光照寺さんはじめ、多くの方々の熱い思いに後押しされ、温かい協力のもとに実現されたものです。

そして、「廉価でも、是非、有料でやって欲しい」という声を多くの方々からいただきました。対等の立場で一緒に舞台を楽しみたいという思いだと思います。

本場の復興は、ここから始まるのかもしれない。

▼平成26年5月3日(土)~4日(日)
岩手県陸前高田市
光照寺・無量閣
▼平成26年5月31日(土)
青森県八戸市
八戸市公会堂文化ホール

いわて演劇塾 2014

夏の特別講座

～小林七緒演劇ワークショップ～



講師・小林七緒さん

《プロフィール》

俳優、演出家。早稲田大学法学部卒業。1998年より流山児★事務所に参加。2000年9月より1年間、文化庁在外研修員としてカナダ留学。帰国後「若手演出家コンクール2001」で最優秀演出家賞を受賞。主な演出作品に「夢謡話浮世寝問」(流山児★事務所)「標的家族!」(社団法人日本劇団協議会)「7ストーリーズ」(文化庁芸術家在外研修の成果)「桜の園」(韓国・アジア演出家展)などがある。一般社団法人日本演出者協会理事。

盛岡会場

日時	8月6日(水)～8日(金) いずれも18:30～
会場	いわてアートサポートセンター、風のスタジオ
受講料	3,000円(定員20名)
問合せ 申込	いわてアートサポートセンター
主催	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
共催	いわて文化支援ネットワーク 岩手県演劇協会 盛岡演劇協会
協力	一般社団法人日本演出者協会

久慈会場

日時	8月 9日(土) 13:30～16:00 8月10日(日) 9:30～15:00(昼食は各自)
会場	久慈市山村文化交流センター (山形村おらほーる)
受講料	無料(定員30名)
対象	久慈管内にお住まい小学生以上・親子参加も可
問合せ 申込	アンバーホール企画グループ ☎0194-52-2700
主催	久慈市教育委員会
共催	いわて文化支援ネットワーク 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター 岩手県演劇協会
協力	一般社団法人日本演出者協会



大槌町立大槌小学校・金管バンド

昨年度に引き続き、今年度も6月28日(土)から「いわてフィル」メンバーによる金管バンド指導が始まりました。6年生が卒業し、新たなメンバーが加わっての練習のスタートです。これから9月の発表に向けて、プロのパート奏者の個別指導を受けながら練習を重ねていきます。

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F
NPO法人いわてアートサポートセンター内
☎019-604-9020 FAX:019-604-9021
E-mail:arts@ictnet.ne.jp
http://ibsn.web.fc2.com/

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

■みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698*

■ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732*

※いずれも口座名:いわて文化支援ネットワーク

■岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2044173

口座名:いわてアートサポートセンター文化支援 代表 瀬川君雄

現在の支援金総額 **814,892円** (平成26年7月20日現在)

ご支援、ご協力
ありがとうございます。